

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170300406
法人名	(有)ハートコネク
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム さくらの樹
所在地	鳥栖市弥生が丘4丁目22番 (電話) 0942-82-5777

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年5月30日	評価確定日	平成20年8月20日

【情報提供票より】(平成20年5月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 2 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	1 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 8.45 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
------	--------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	70 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ももち浜クリニック、やよいがおか鹿毛病院、きやま鹿毛病院、こばやし歯科医院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

病院やコンビニエンスストア、公園等が点在している新興住宅街の一角にあり、アパートや民家に囲まれた地域に立地している。職員は、日々のあたりまえの生活を継続することの大切さを十分に理解し、常に入居者を敬い、その人らしい生活の支援に一丸となって取り組んでいる。職員の数も基準より多く、入居者の状況に合わせた支援が可能となっている。共用空間は季節の花に彩られ、四季折々の風情が肌で感じ取られる。また、ホームを取り囲むようにサンデッキが設置され、入居者はいつでも自由に出入りができ、季節の移ろいを感じつつ、気分転換ができるような配慮がなされている。家庭的なゆったりとした雰囲気の中で、入居者の方とのふれあいを大切にしながらも、記録はきちんとなされており、日々の支援の中でも速やかに確実に記録できるような工夫が随所になされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>行政機関や地域住民との連携が改善課題とされていたが、運営者をはじめとし、職員全員で改善するよう取り組み、地域密着型サービスとしての機能を十分に理解し、地域に根ざしたサービス提供に邁進している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者および職員は評価の意義と目的を理解しており、前回指摘された改善項目については早期に対応し、話し合い、改善している。今回の自己評価についても、職員全員で取り組み、更なる質の向上に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議においては、地域の民生委員、区長、市議員など多様な方々の出席を得て、現況報告、行事等について話し合いを行い、そこでの意見や提案を積極的にサービスに活かすような取り組みが見られる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会も頻回に行われており、面会時や運営会議の席上において意見・苦情を出していただくような雰囲気作りをしている。出された意見・苦情に対しては職員全員に周知徹底し、話し合い、前向きに取り組み、サービスに反映するようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの周りは民家やアパートが建ち並んでおり、子どもの声なども自然に入ってくる環境の中で、自治会にも加入し、回覧板も回り、地域の行事にも積極的に参加している。避難訓練時にも地域の方の協力を得るような働きかけがなされている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「楽しい我が家、明るい家族」を理念に掲げ、地域密着型サービスとして地域に根付き、地域の方々と共に共存しながら、入居者の尊厳を守りつつ、家庭的な環境造りに取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はわかりやすい言葉で、常に目の付くところに掲げられており、その具現化に努めている。毎月の定例会議の折りには唱和している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周りは、アパートや民家が建ち並んでおり、子どもの声なども自然に入ってくる環境の中で、自治会にも加入し、回覧板を回して頂いたり、夏祭り・秋祭りへの参加など積極的に交流している。また近隣の保育園とも交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善項目については早期に話し合い、改善している。今回も職員全員で話し合い、自己評価を行い、更なる質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の民生委員、区長、市議会議員など多様な方々の出席を得て、話し合いを行い、そこでの意見や提案をサービスに積極的に活かそうとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームから相談に出向いたり事業所のパンフレットを置いていただいたりして、市町村と連携をとるように努めている。また、地域のグループホーム協議会に参加し、研修会・会合に出席するなどして、情報交換や質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会が頻回にある方が多く、その都度積極的に話す機会を作り、利用者の個人記録や日々の写真、献立の写真などを見ていただき近況報告を行っている。毎月のホーム便り送付時には、預かり金出納一覧やスナップ写真なども添えている。面会にこられない家族には、電話連絡で近況報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議には家族代表の方も出席され、出された意見には前向きに取り組み、運営に反映している。家族が話しやすい環境造りを心掛け、利用者の小さな変化も報告するようにしている。また、職員からも積極的に声を掛け、ご意見をいただくようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員採用時には、業務体験をもらい、グループホームへの理解を深めてもらうようにしている。家庭の事情等での職員の離職はあるが、最小限にとどめるよう努めている。馴染みの関係の大切さを熟知しており、勤務態勢などを工夫して、安心して暮らしていただけるよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会の情報は全員に案内しており、研修会参加は勤務扱いとするなどして、積極的に参加できる環境を作っている。また、全体会議で自主勉強会を開いたり、シフトの工夫などによって職員同士での学習による質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鳥栖地区のグループホーム協議会や介護支援専門員協議会に所属しており、定期的な会合や研修会を通じてサービスの質の向上に努めている。また、他のグループホームの夏祭りに参加したり、見学・訪問をすることによって、日々の取り組みを振り返る機会としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族等からの入居前相談のあとには、自宅訪問をしたり、体験入居を行ったりすることで、なじんでいただけるように努めている。入居後も、本人・家族と話し合いながら、自宅とホームを行き来し、徐々にホームの生活に慣れていただくよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩であるということをおぼれず、職員は学ぶ姿勢で、味噌や梅干し、漬物、干し柿、料理方法などを教えていただくなど、お互いに支え合う関わりが見られる。このことが、利用者にとっては役に立っている喜びを感じることにつながり、生きる励みになっていると思われる。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の勝手な思いの押しつけにならないよう常に問いかけ、職員同士での気づきを大事にしながら、眩く言葉や表情など小さな変化も見逃さないよう心掛けている。また家族からの情報収集も密に行い、職員間で情報を共有することで日々のケアに生かせるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族面会時やホーム便り送付時に本人や家族の希望や意見を尋ね、それを尊重しながら、全スタッフで検討を重ね、その人らしく安心して生活が送れるよう利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じ、定期的に全スタッフで見直しを行っている。また、利用者の状態の変化に伴い、その都度家族に相談しながら計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居時には家族の宿泊が出来るよう配慮し、家族面会時には積極的に話す機会をつくり、状況の報告や要望の確認を行っている。またスタッフの配置にゆとりを持たせ、受診時の付き添いなど、柔軟な対応が出来るようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医より毎週往診していただいている。家族の希望により以前からのかかりつけ医への通院受診も可能であり、現在は、ホームでの訪問医療7名、通院医療2名となっている。また急変時の対応なども家族と常に話し合っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームが対応しうることを見極め、対応の指針を定めている。本人や家族の希望に添える終末期をおくることが出来るよう早期から医師や家族とも話し合いを繰り返し、同意書もいただいている。日頃から協力医の指導を受け、常に状態の変化に伴う報告や連絡を密にして、職員全員で方針を共有し統一したケアの実践に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に人生の先輩としての声かけ、介助をするよう心掛けている。会議などで最低限個人情報を用いることに関しては家族に説明を行い、承諾をいただいている。また毎月のホーム便りへの写真の掲載についても家族の了解を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるものの、それぞれの利用者の生活リズムを尊重し、ゆったりとした環境で、本人の意向や要望を聞きながら、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来ることを見つけ、それに応じて野菜の皮むき、下ごしらえ、つぎわけ、配膳、食器ふき等それぞれの出番を作るよう心掛けている。食事中にもそのことを話題にして、食事を楽しくいただけるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日は決まっているが、利用者の希望に応じている。一人の入浴時間もゆったりとっており、楽しんでいただけるようにしている。また夜間の入浴希望については夕方に対応したり、毎日入浴を希望する場合には、毎日の入浴が可能な職員体制としている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味を把握し、それぞれの出来ることを見つけ、水やり、庭の手入れ、草取り、ふき掃除等場面場面で無理強いすることなく出番を多く作って、日々の張り合いがあるようにしている。習字やお経、エプロンを掛けてのモップがけ等、入居者の輝いている場面を見つけ出し、生き生きとした生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日午前と午後、散歩外出の時間を設けている。また月1回は全体の外出会を設けており、利用者の希望するところへ行くようにしており、入居者の楽しみにもなっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は全ての出入り口に鍵を掛けておらず、職員の声かけや見守りで自由に行動が出来るよう配慮している。外出する際には職員がさりげなく付いていけるような体制をとっている。また、サンデッキがあるため、開放感があり、自由な出入りが楽しめる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署の指導による避難訓練を行っている。また住宅地に立地しているため、近隣の方々へも案内をし、協力をいただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食、水分摂取は毎回チェックをしている。摂取量が落ちている時には速やかに対応し、医師に相談をしたり、食事形態等を検討している。テーブルには、個人用のボトルを置き、こまめに水分が取れるよう配慮している。お茶、コーヒー、ポカリスエットなど、利用者の好みに応じ飲んでいただくようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、入居者が安心して過ごせるような配慮がなされ、家庭的な雰囲気の設定である。居間の傍らには、アイランドキッチンがあり、調理の音や匂い等が入居者の五感を刺激すると共に、生活感溢れる状況を醸し出している。加えて、テーブルや居間の至る所に季節感溢れる花々が飾られており、季節の移ろいを感じ取られるような配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはベッドや整理ダンス等好みの家具を選んでいただいている。本人の馴染みの深いタンスやイス、テーブル、家族の写真等を家庭から持参していただき、その人が大切にしていたものに囲まれ、その人らしい設えがなされている。		